



馬耳東風

「小言幸兵衛」という落語がある。麻布古川町に長屋をもつ大家の田中幸兵衛さん、朝、長屋をひとまわりして、小言を言って来ないと気が済まないというくらい小言を言うことを生き甲斐にしているようなところから、人呼んで小言幸兵衛。落語の方は、この幸兵衛さんが部屋を貸してもらいたいと言ってきた豆腐屋とか仕立屋相手に、小言というよりは、ばかばかしい難癖をつけるという他愛のない癖で、落語として決してできのいい方ではない。六代目三遊亭圓生の話術で聞かせる落語という記憶がある。

この幸兵衛さんに近頃私は似てきたのではないかと思う機会が増えた。実際に小言を言うわけではないが、心の中で「このバカ」とか思ってしまう。この頃、週末の楽しみは大きな浴場へ行くことであるが、脱衣場から浴室へ入るドアをきちんと閉める人がきわめて少ない。申し訳程度に閉めるが50cm以上も開いている人、勢いよく閉めすぎて反動でまた開いてもそのままの人、などが圧倒的に多い。過日湯船につかりながら勘定したら37人申し訳程度に閉めたのはたった4人だったのにはわれながら驚いた。もう少し例数を増やそうとしたがのぼせそうになったので打ち切ってしまった。

私の住んでいる近隣の人たちのマナーが格別悪いのかなども考えたが、そういえば電車でもそうだったなと気がついた。「だった」というのは、近頃電車では心の中で小言を言わなくなったからである。これは決して乗客のマナーが良くなったからではなく、技術開発の賜物である。気がつかれている方も多いと思うが、この頃の電車は、車両間のドアが重くて、とても勢いよく開閉することはできない。そのため耳が破裂しそうな音を立てられることはなくなった。開け放しにしても自動でゆっくりと閉まるようになっている。また最近のニュースによ

ると、足をひろげられないよう工夫した座席が開発され、近々導入されるそうである。鉄道会社は乗客のマナーに期待せず、技術開発で対処しようとしているようである。毎回聞かされる携帯電話にもこのような技術開発がなされるとうれしい。電車で携帯電話を使っていると耳元でキーンという音がして一時的に難聴になったりして……。

ところで、東日本大震災後しばらくテレビから下品なお笑いやバラエティ番組がなくなり清々していたが、一週間で元の木阿弥となってしまった。テレビはいつから国籍不明のガキどもが騒ぐだけの低俗番組が幅をきかせるようになってしまったのか？ NHK教育テレビまでもが、お笑い芸人を出演させたり、番組の宣伝をかなり立てたりしている。こんな小言誰もまともに取り合おうとしないと、また小言を言いたくなる。

テレビが世に出始めた頃、大宅壮一氏が、「テレビに至っては紙芝居以下の白痴番組がずらりと並んでいる。テレビという最も進歩したマスコミ機関によって、『一億総白痴化』運動が展開されている。」（『週刊東京』1957.2.2）と述べてから半世紀、われわれは相当白痴化が進行しているに違いなからう。ラジオならその場面を想像するという頭の働きがある。活字ならさらに何度でも読み返し思考するという過程が加わる。しかしテレビの場合は、映像や音声をただ受動的に見たり聞いたりしているだけであるから想像力や思考力は低下せざるを得ない。ましてや白痴番組を見れば言うにや及ぶであろう。昔何かで、「テレビ見ない人一流、見る人二流、出る人三流、作る人五流」というのを読んだことがある。これまでできるだけ一流になろうと努めて来たが、東日本大震災以来、ニュースのあとも漫然とテレビを見ることが多くなってしまった。こんなことではますます白痴になるぞと自分自身に小言を言う毎日である。

(久)